

民法の流れ図

中山 秀 登

はじめに

A 編と編との関係

B 章と章との関係

C 節と節との関係

D 款と款との関係

E 条文と条文との関係

F 条文（本号，第2編 物権，第2章 占有権，第1節 占有権の取得，第180条から，第187条まで）

むすび

凡例

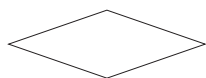
流れ図については，寺田文行ほか編・高校数学解法事典，1205頁以下「コンピュータ」を参照した。同書1206頁によれば，



は，「はじめ」と「おわり」を示す。

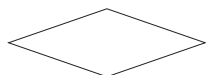


は，「計算式など処理の内容をかく。」



は、「判断の条件をかきこみ,それによって分岐する。」

ということである。本稿では,



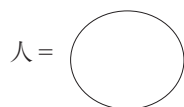
のばあいには, YはYesすなわち, 「はい」を表し,
NはNoすなわち, 「いいえ」を表す。

数字だけ書いてあるばあいは, 条文を表し, 項は① ②などと表す。

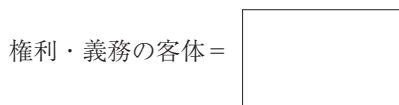
注は, (1)(2)・・・などとして表す。

注のなかで, 図をもちいて説明する。以下のように, 図の意味を決める。

権利・義務の主体は, 人であり, 人の頭, ヘルメットは, 丸いので, 丸で表す。すなわち権利・義務の主体 =



権利・義務の主体である, 人を丸で表すのにたいし, 権利・義務の客体は, 何かあることであり, 四角形で表す。すなわち,



人が, 何かある権利を持っている, あるいは義務を負っているというばあい, 人と権利・義務の客体は, 線で結ばれている, と考える。そこで, つぎのように表す。

——— は, 権利があることを表す。たとえば, 債権。

————— は, 所有権があることを表す。所有権は, たとえて言えば, 太い綱である。

————— 制限物権の設定は, 所有権の太い綱から, 一本の糸を取り出すことを表す。左図で, 点線は, 制限物権が取り出されている状態を表す。

++++ は、占有権があることを表す。

..... は、義務があることを表す。たとえば、債務。

——→ は、「売る」、「買う」などの意思表示などを表す。



は、不動産の物権の変動の対抗要件を表す。

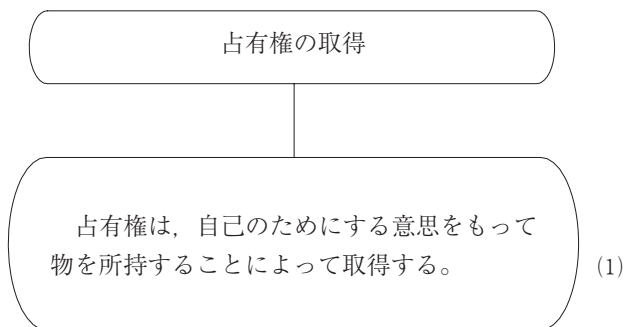


は、動産の物権の譲渡の対抗要件を表す。

参考までに、対抗要件を  で表したのは、つぎのイメージによる。

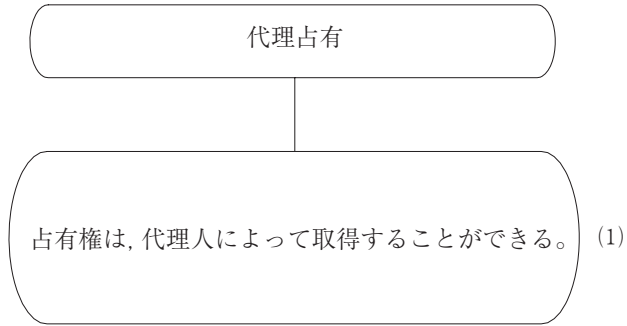
中世ヨーロッパの騎士が、片手にもっていた盾のイメージである。相手からの、攻撃を防ぐ盾の形は、おおよそ逆三角形であった。そこで、逆三角形の形で、対抗要件を表す。もう一つ、他の例を挙げる。パソコンのゲームにあるピンボールのなかで、上から落ちてくる球を跳ね返す、クリッパーという逆三角形の道具がある。相手方の意思表示が球の動き、とすれば、球を跳ね返すのが、クリッパー、である。

第180条

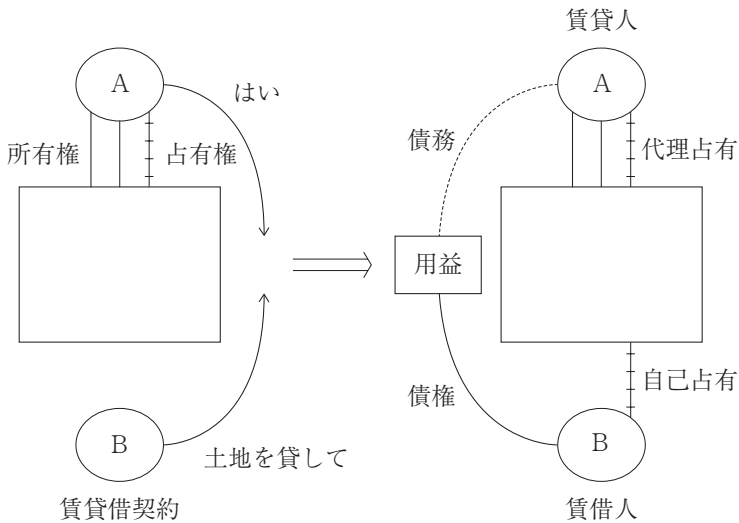


- (1) 「自己のためにする意思」について、三和一博教授は、つぎのように述べられる。「たとえば、……，盗人……などの所持は，そのような者の所持であるというだけで，自己のためにする意思があるとみられる。」「……，全く知らない間に庭に投げ込まれたボールなどについては，潜在的・一般的意思を認めるわけにはいかないから，占有は取得されない。」「……，少なくとも占有意思が必要とされる以上，幼児などの意思無能力者は，占有意思をもちえず，所持は取得できてもみずから占有を取得することはできず，法定代理人を通じて占有（代理人による占有）を取得することになるといわれている（通説）。」基本法コンメンタール〔第5版〕物権43頁。

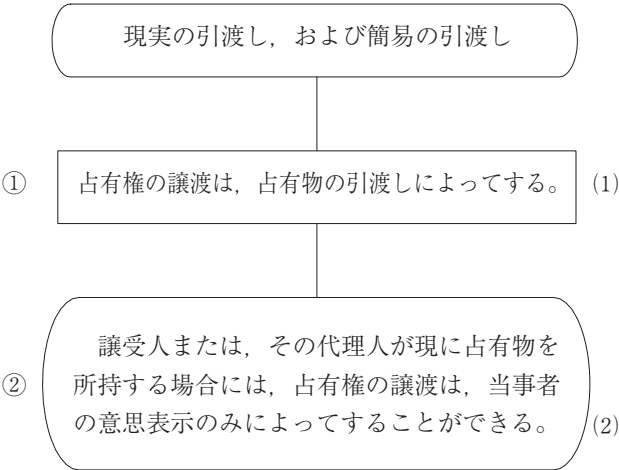
第181条



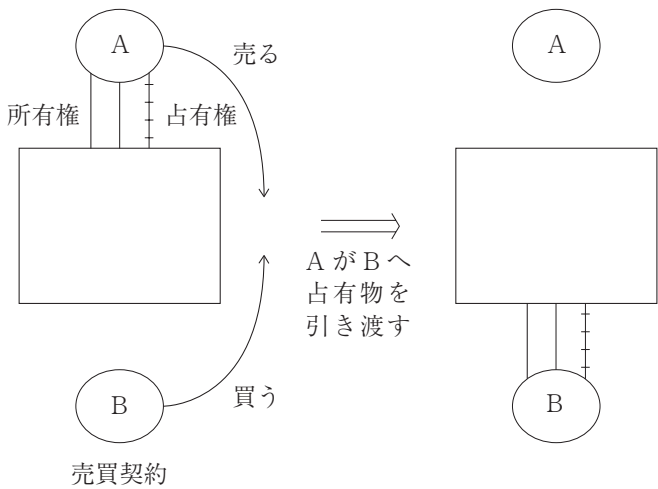
- (1) 以下、181条から、184条までの例は、高梨公之監修・口語民法〔補訂4版〕を参照した。本条は、A所有の土地について、AとBが賃貸借契約をむすんだばあい、例にとる。本条に書かれてある代理人は、賃借人Bである。



第182条

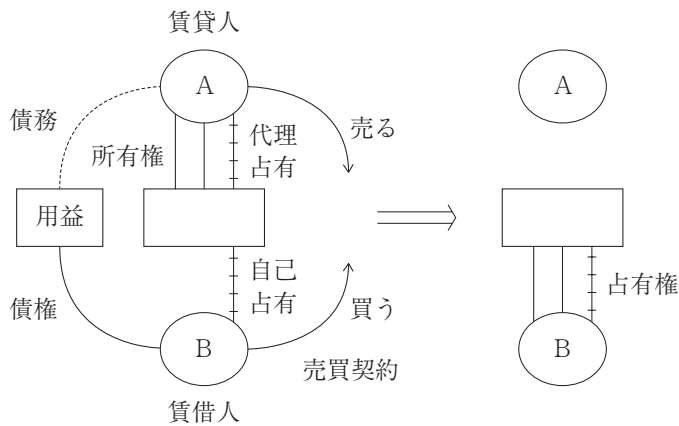


(1) 売主Aが、買主Bへ、目的物を引き渡すばあい。



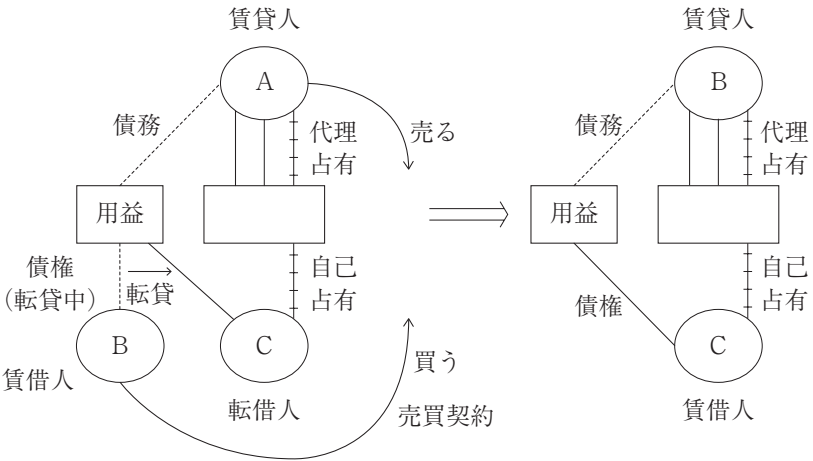
(2) 簡易の引き渡し。その1－譲受人が現に占有物を所持するばあい。

賃貸借契約にもとづく債務関係によって、賃借人Bは、物の用益にかんして、債権をもっている。後に、賃貸人Aが、賃貸物をBへ売る、売買契約をする。売買契約をする以前は、賃貸人Aは、物を代理占有していて、賃借人Bは物を自己占有していた。Aの「売る」という意思表示、Bの「買う」という意思表示だけで、占有権は譲渡される。

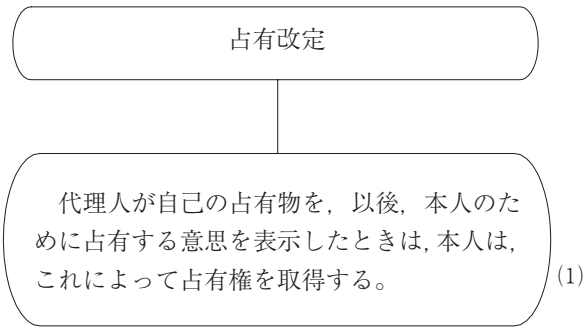


簡易の引き渡し。その2 - 譲受人の代理人が現に占有物を所持するばあい。

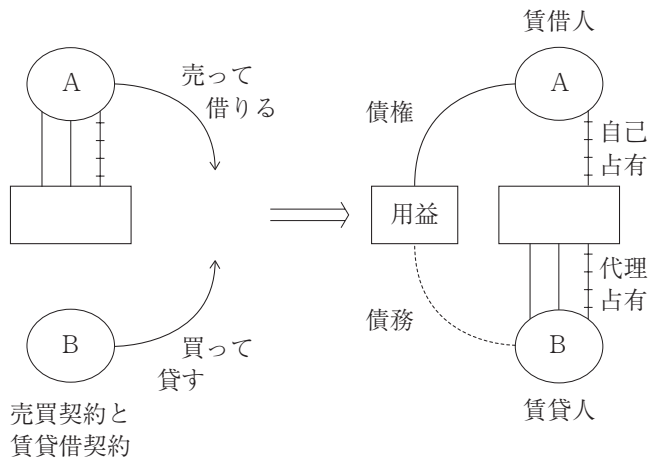
賃借人Bが、賃貸物を、Cへ転貸していたときに、賃貸人Aが、賃貸物を、Bに売ったばあい。売買以前は、賃貸人Aが代理占有していて、転借人Cが自己占有していた。Aの「売る」という意思表示、Bの「買う」という意思表示だけで、占有権は、AからBへ譲渡される。売買後の賃貸物にかんしては、買主Bが、賃貸人として代理占有して、転借人Cは、賃借人となって、自己占有している。



第183条



- (1) 売主Aが、Aの所有物を、Bに売る。同時に、Aが、同じ物を、買主Bから賃貸借するばあい。



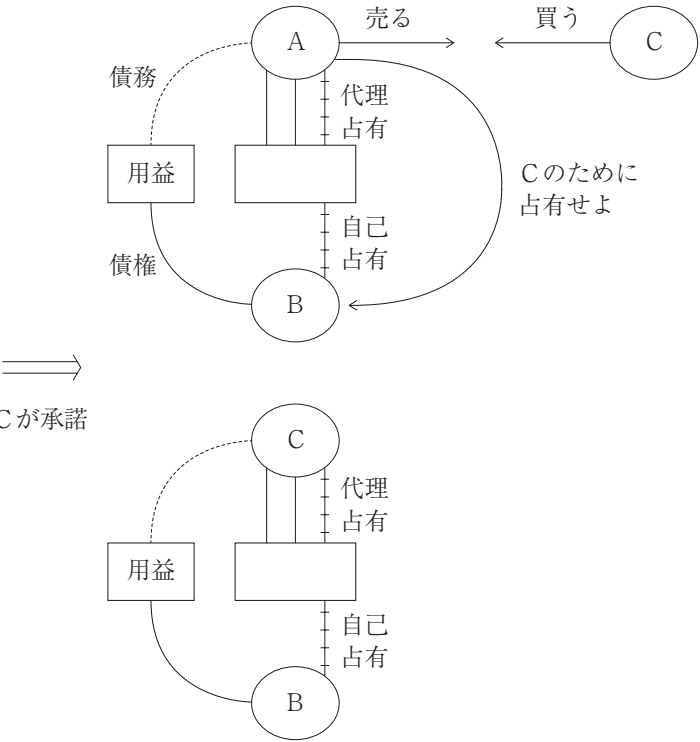
第184条

指図による占有移転

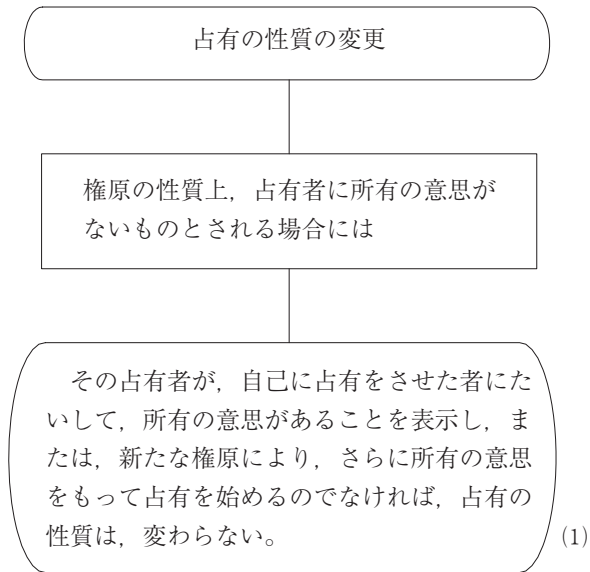
代理人によって占有をする場合において、
本人が、その代理人にたいして、以後、第三
者のために、その物を占有することを命じ、
その第三者が、これを承諾したときは、その
第三者は、占有権を取得する。

(1)

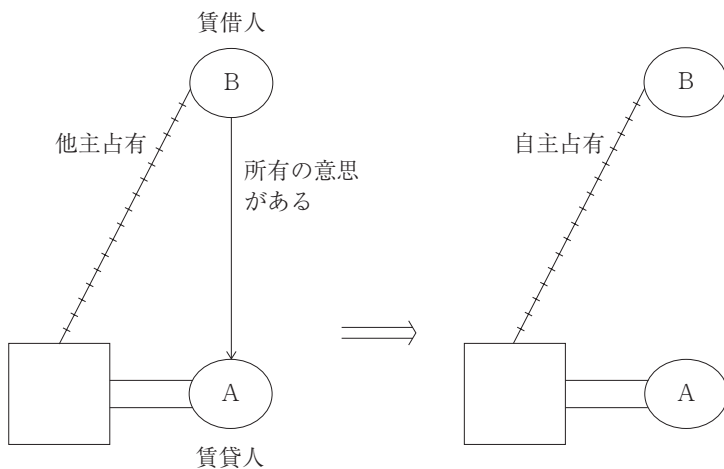
(1) Aが、Bへ貸している、Aの所有物を、Cへ売ったばあい。



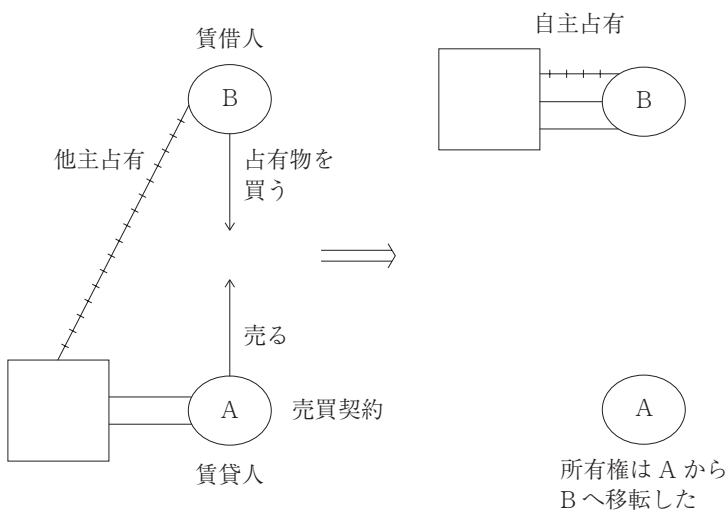
第185条



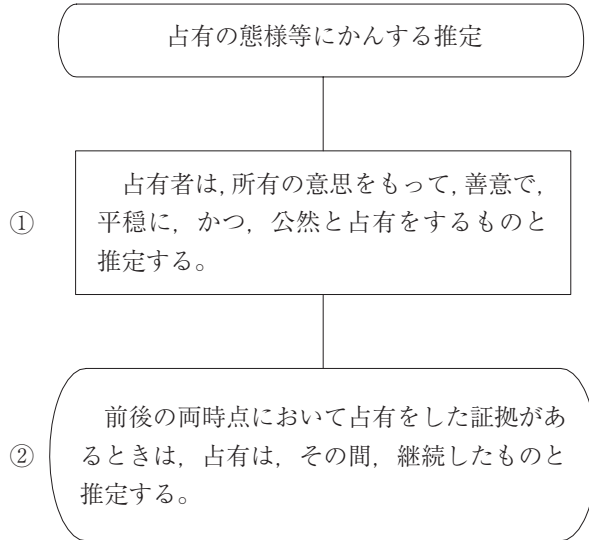
- (1) 賃借人である、占有者Bが、自己に占有をさせた者すなわち賃貸人Aにたいして、所有の意思があることを表示したばあい。



賃借人である、占有者Bが、新たな権原により、さらに所有の意思をもって、占有を始めるばあい。



第186条



第187条

